

# 埋文にいがた

No. 83

2013. 6. 28

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 平成25年度発掘調査遺跡の紹介

### 小船渡遺跡 (新発田市中曾根町)

小船渡遺跡は、加治川によって作り出された扇状地の先端部分に立地します。標高は約4.5mです。一般国道7号新発田拡幅事業に伴い、2か年で705m<sup>2</sup>を調査した結果、時期の異なる2面の遺跡が重なっていることがわかりました。上層からは中世（鎌倉から室町時代、13世紀後半から15世紀前半）の集落、下層からは古代（平安時代、9世紀前半から中ごろ）の畠地を検出しました。このうち、中世の集落の遺存状態が大変良好でした。このことについては、すでに本紙No. 81で紹介しました。

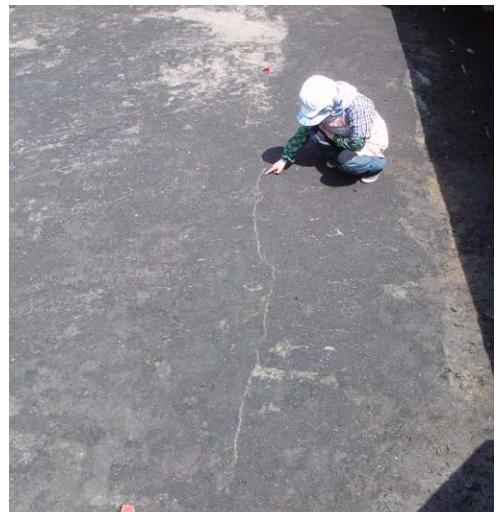
今号で紹介するのは地震で発生した液状化現象の跡です。右の写真にあるように、幅1cm、長さ4mほどの噴砂脈を検出しました。また、赤い杭同士が南北軸ですので、ほぼ南北方向に走っていることが分かります。幅1cmというと、大きな地震で発生したものではないと思いがちです。しかし、東日本大震災後の地質調査によれば、1度広がった噴砂脈が閉じてしまった事例があり、幅の広さだけで地震の規模を測ることはできないとのことです。

それでは、この地震痕跡はいつ発生したものなのでしょうか。写真に見える黒色の地層に15世紀の遺物を含むことから、15世紀以降に発生したことが分かります。さらに、昭和期の耕作土の下で噴砂が噴出している様子を観察できることから、1964（昭和39）年に発生した新潟地震に相当しないと言えそうです。そこで注目されるのが、1833（天保4）年10月26日に山形県沖を震源として発生した庄内沖地震（マグニチュード7.5）です。当時の古文書には、新発田藩を中心に家屋損壊、死者があり、地裂け水砂を噴出したという記録があります。まさに液状化現象が発生したことを物語る記録と言えます。近年の古文書の調査では、阿賀野川以北から庄内地方での被害が特に甚大であることが明らかになっています。検出状況、古文書の記録内容を総合的に評価すれば、庄内沖地震に比定できる可能性が極めて高いと言えそうです。古文書にある記録内容が、遺跡の調査で裏付けられたことは貴重な成果と言うことができましょう。

（加藤 学）



遺跡の近景(北西から)

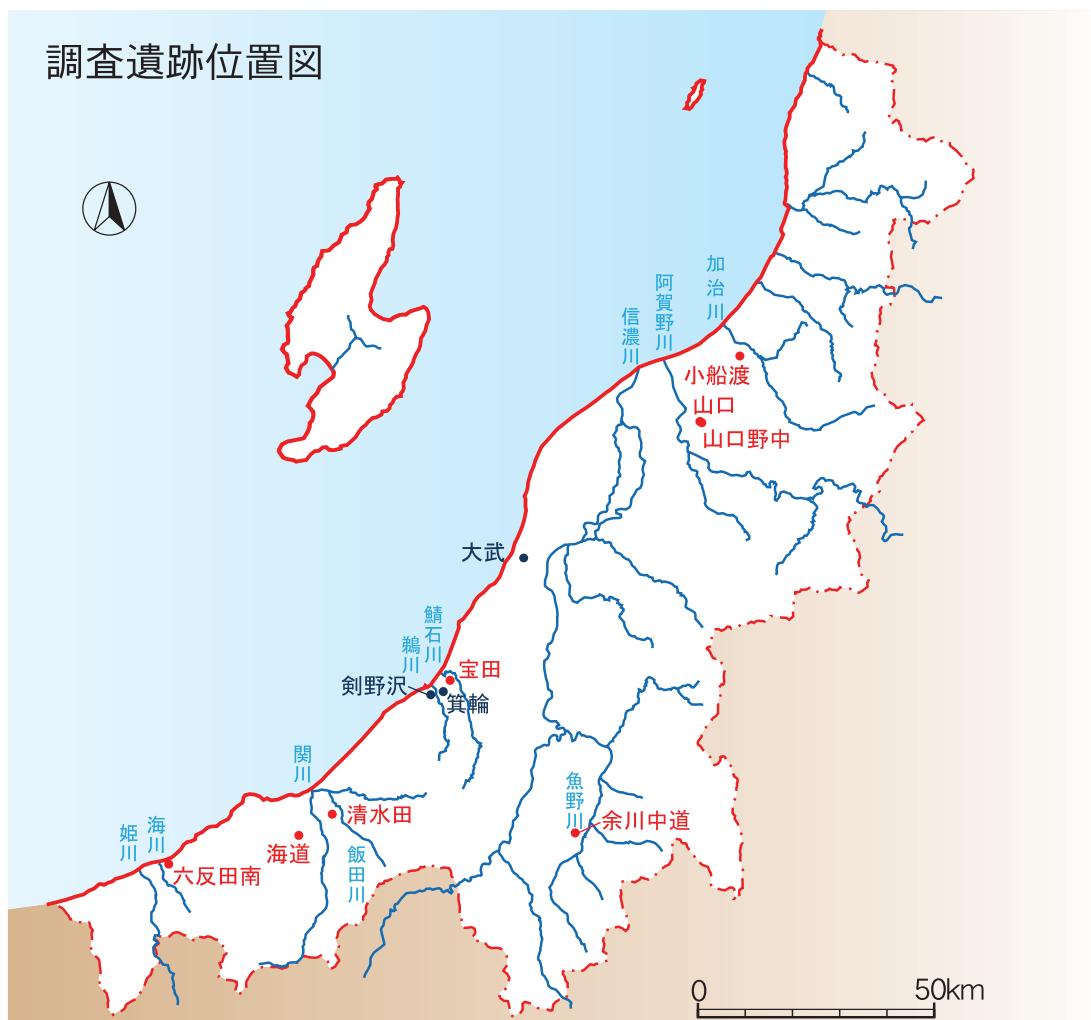


庄内沖地震によって  
生じたと考えられる噴砂脈



噴砂脈の断面(黒色の地層が15世紀)

## 平成25年度 本発掘調査遺跡・整理作業遺跡一覧



### 本発掘調査

番号	遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
1	小船渡遺跡	国道7号 新発田拡幅	新発田市	5・6月	古代・中世
2	山口遺跡	国道49号 阿賀野バイパス	阿賀野市	4~11月	古代・中世
3	山口野中遺跡	国道49号 阿賀野バイパス	阿賀野市	4~11月	縄文・古代・中世
4	宝田遺跡	国道8号 柏崎バイパス	柏崎市	4~11月	古代・中世
5	余川中道遺跡	国道17号 六日町バイパス	南魚沼市	6~10月	古墳
6	清水田遺跡	国道253号 上越三和道路	上越市	4~9月	古代・中世・近世
7	海道遺跡	上信越自動車道	上越市	8・9月	古代・中世・近世
8	六反田南遺跡	国道8号 糸魚川東バイパス	糸魚川市	4~12月	縄文・古墳・古代

### 整理作業

番号	遺跡名	所在地	主な時代
1	箕輪遺跡	柏崎市	平安
2	剣野沢遺跡	柏崎市	縄文・中世
3	大武遺跡	長岡市	縄文
4	山口野中遺跡	阿賀野市	古代・中世

## 埋文インフォメーション

### 埋文センターの展示替えをしました

新潟県埋蔵文化財センターのエントランスの展示替えを行いました。平成23年度までに発掘調査した5遺跡と平成24年度に発掘調査報告書を刊行した1遺跡について、遺物と遺跡の写真パネルを用いて解説しています。展示期間は9月1日(日)までです。



#### ■山崎遺跡 調査原因:一般国道8号柏崎バイパス建設(平成22年度)

所在地: 柏崎市藤井字山崎

平安時代(9世紀中葉～後半)・室町時代(15世紀)の遺構・遺物が見つかりました。遺構は、掘立柱建物・土坑・井戸・溝・ピットなどで、大半は平安時代の遺構です。遺物は、平安時代の須恵器・土師器・曲物・盤、室町時代の珠洲焼・青磁・白磁等が出土しました。川跡から出土した須恵器杯や土師器碗の中には、「墨書き土器」が十数点含まれています。「中山」と記されたものが多く、地名を示すものかもしれません。また、「草花文」の墨書きは珍しいものです。



墨書き土器(草花文)

#### ■上道下西遺跡 調査原因:北陸自動車道糸守スマートインターチェンジ建設(平成22年度)

所在地: 三条市福島新田内

室町時代(14世紀後半)・平安時代(9世紀後半～末)・縄文時代の3時期の遺跡が見つかりました。平安時代には微高地上の平坦面に大きな水田が、低地に向かう斜面には小型の水田が作られています。室町時代には水田造成時の地盤への掘り込みがほとんどなく、微高地上は平安時代の水田の窪地を利用し、傾斜地では土を盛り上げた細い畦で水田を区画しています。



室町時代の水田(北西から)

#### ■小坂居付遺跡 調査原因:一般国道8号白根バイパス建設(平成21～23年度)

所在地: 新潟市南区小坂字居付

鎌倉時代末～室町時代(13世紀後半～14世紀)の屋敷地と周囲に広がる上下4枚に重なった水田が見つかりました。屋敷地からは様々な生活用品が出土しています。木簡には地名を示す「吉多」と書かれた茅札(茅を刈る許可証)や、稲の品種や屋敷地の管理を示す「志ろわせ/さとう三郎」と書かれた種子札があります。屋敷と水田の関係や水田での栽培種まで判明するなど、貴重な発掘調査例となりました。



屋敷地(東から)

しもわり

**下割遺跡**

調査原因:一般国道253号上越三和道路建設(平成22~23年度)

所在地:上越市米岡字番場

遺構は、掘立柱建物・土坑・井戸・溝・ピットなどを数多く検出しました。大半は江戸時代以降に構築されたものでしたが、室町時代の遺構も多く検出されています。室町～江戸時代（14～19世紀）にかけて断続的に営まれた集落の一端と考えています。

注目されるのは、2条の溝が平行して調査区を東西に横断するもので、溝間を道として利用していた可能性があります。



道の検出状況(西から)

みやばなちょう

**宮花町遺跡**

調査原因:一般国道8号青海跨線橋架替(平成22年度)

所在地:糸魚川市青海字黒岩

おやしらざ

遺跡は親不知海岸の入り口に位置し、日本海と丘陵に挟まれた狭い海岸平坦地にあります。15体の埋葬人骨及び石列1列を検出しました。人骨の放射性炭素年代測定の結果、室町時代（15世紀前半）の埋葬地であることが分かりました。人骨の多くは体の一部を折り曲げた状態で検出され、鉄釘が出土したものもありました。したがって、木棺や桶棺、あるいは墓坑に直接、座葬もしくは側臥屈葬されたものと思われます。当時の糸魚川地域や北陸地方の海浜部の葬送儀礼を知る上で、重要な事例です。



人骨出土状況(南から)

かわくほ

**川久保遺跡**

調査原因:一般国道17号湯沢交差点改良工事(平成11~12年度)

所在地:南魚沼郡湯沢町大字神立字川久保

川久保遺跡は、信濃川支流の魚野川上流部左岸、標高約350mの段丘上にあります。発掘調査により、縄文時代中期前半から後期前半にかけての集落が見つかりました。

遺構は、中期の竪穴住居及び住居の炉と考えられる石組、中期から後期の焼土・集石・土坑・埋甕などを発見しました。中央に複式炉をもつ敷石住居1基は、県内では検出例が少なく貴重です。

遺物には、縄文土器・石器と少量の土製品・石製品・獸骨があります。縄文土器は時期によって様相が異なります。中期前葉では中部高地系・関東系が主体を占めます。中葉では越後独自の火炎型土器が最盛期を迎えるとともに、新たに東北系の土器が加わります。中葉後半になると、信州地方の唐草文系土器と関連のある綾杉文を多用する土器が目立ちます。後期は三十稻場式土器など越後独自の土器から、関東系の土器へと移り変わります。

このように各地域の影響を受けた土器が存在することは、当遺跡が地域の拠点集落であったことを物語っています。



# 越後国域確定1300年

弥生・古墳時代の新潟県



越後国域確定1300年

和銅5（712）年の越後国確定から平成24年で1300周年を迎えました。平成25年度は越後国の母体となった弥生・古墳時代をテーマとして、県の成り立ちや魅力を知るイベントを開催します。昨年度と同様に、リレー講演会やシンポジウム・遺跡ウォーキングなどの事業を展開します。

また、県内の埋蔵文化財関係イベントを集約した広報冊子「新潟まいぶんナビ」を2回発行します。

詳しくは新潟県教育庁文化行政課ホームページをご覧ください。

リレー講演会は申込が必要です。

【お問い合わせ先】

新潟県文化行政課埋蔵文化財係

電話：025-280-5620

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/>

参加費無料！

■リレー講演会 「弥生・古墳時代の新潟県」

回	日程	会場	タイトル
1	6月16日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説①新潟県の弥生時代前期～中期」
2	6月29日(土)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説②新潟県の弥生時代後期～古墳時代前期」
3	7月7日(日)	佐渡島開発総合センター	「弥生時代における佐渡の玉作遺跡の重要性」「佐渡の弥生～古墳時代遺跡」
4	8月24日(土)	村上市教育情報センター	「弥生時代史における新潟県北部の重要性」「村上市内の弥生～古墳時代遺跡」
5	9月29日(日)	妙高市新井ふれあい会館	「斐太遺跡群の提起する問題～弥生時代～古墳時代前期の列島史での位置付け」「妙高市の弥生～古墳時代遺跡」
6	10月13日(日)	南魚沼市民会館	「飯綱山古墳群が提起する問題～畿内政権の東国支配の変化～」「南魚沼市内の弥生～古墳時代遺跡」
7	12月1日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「日本海ガラスロード」
8	1月19日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説③新潟県の古墳時代中期～後期」
9	2月2日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説④新潟県における古墳時代の終焉」

■巡回展「遺跡が語る古代のにいがた一越から越後・佐渡へ」

開催期間	会場	備考
6月22日(土)～9月1日(日)	十日町市博物館 入館料 一般300円(中学生以下無料) 団体250円(20人以上)	3月末まで新潟県埋蔵文化財センターに展示していた企画展の巡回展。

越後国域1300年記念事業

新潟県埋蔵文化財センターで開催する行事

催し物	期日	時間	内容	定員	申込期間
第1回 リレー講演会	6月16日(日)	13:00～15:00	「概説①新潟県の弥生時代前期～中期」	80	5月1日～(先着順)
第2回 リレー講演会	6月29日(土)	13:00～15:00	「概説②新潟県の弥生時代後期～古墳時代前期」	80	
第7回 リレー講演会	12月1日(日)	13:00～15:00	「日本海ガラスロード」	80	9月2日～(先着順)
第8回 リレー講演会	1月19日(日)	13:00～15:00	「概説③新潟県の古墳時代中期～後期」	80	
第9回 リレー講演会	2月2日(日)	13:00～15:00	「概説④新潟県における古墳時代の終焉」	80	
親子考古学教室	8月3日(土) 8月12日(月) 8月25日(日)	9:30～15:30	夏休みに親子で考古学を学ぶ講座です。遺跡から出土した土器や石器などの見学と体験を組み合わせて学習します。火起し、勾玉作り、土器作りの体験を行います。	40(親子20組)	7月8日～7月24日
				40(親子20組)	(定員以上抽選)
				40(親子20組)	
まいぶん祭り	9月22日(日)	9:00～16:00	子供から大人まで、古代の道具にふれるこことできる体験イベントです。当時の生活を考え楽しむ体験が盛りだくさんです。新潟市弥生の丘展示館、県立植物園、秋葉区産業振興課によるイベントも同日開催予定です。	なし	なし
企画展	9月13日(金)～2月23日(日)	9:00～17:00	「遺跡が語る弥生・古墳時代の越後」	なし	なし

入館料・参加費無料ですが、リレー講演会と親子考古学教室は事前に参加申込が必要です。

電話・ファックス・メールのいずれかの方法で埋蔵文化財調査事業団にお申し込み下さい。

皆様のお越しをお待ちしております。

リレー講演会第1・2・7・8・9回／親子考古学教室／まいぶん祭り

【申込先】

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

電話:0250-25-3981 FAX:0250-25-3986

メール:niigata@maibun.net

## 県内の遺跡・遺物81

しも や ち  
下谷地遺跡出土品 (平成23年3月県指定)

(遺跡所在地:柏崎市吉井字北沖 所有者:柏崎市(柏崎市立博物館))

下谷地遺跡は、柏崎平野の北方の低湿地に立地し、標高は約5mです。北陸自動車道の建設に伴い、昭和52年から54年に新潟県教育委員会が発掘調査を行いました。その結果、弥生時代中期の平地住居6棟（うち5棟は周溝を持つ）、掘立柱建物13棟、土坑161基、方形周溝墓4基、ピット1,350基などが検出されました。

出土遺物には、土器、土製品、石器、石製品、木製品、炭化米などがあります。土器には、壺、甕、高杯の3器種があり、器形や文様から2系統が認められます。一つは北陸一帯に広く分布する櫛描文系土器で小松式と呼ばれており、全体の9割以上を占めます。櫛歯状工具を用いた文様で、櫛歯5本前後で平行線を描くことが特徴です。直線文、波状文、簾状文などです。もう一つは中部高地系の栗林式土器と呼ばれているものです。この土器には依然として縄文を用いているものもあります。この中には、人面付き土器と推測される土器が1点確認されており、中部高地との密接な関係がうかがわれます。

石器では、石鏃と石錐が卓越する点は北陸地方と共に通しますが、有茎の石鏃が多い点は、新潟の特徴と言えます。一方、大陸系の磨製石斧や穂摘み具の磨製石庖丁は認められませんが、安山岩・粘板岩製の「庖丁形石器」があります。使用痕分析の結果、イネ化植物の根切りに使用されたと推測されています。玉作関連資料では、管玉とその製作工具（擦切具、楔形石器、砥石、石針）が揃っており、原石から施溝分割、穿孔、押圧剥離と研磨による仕上げまで一連の製作工程がよくわかります。石材は9割以上が緑色凝灰岩で、少量の鉄石英があります。擦切具は扁平な石の側面に歯をつけたもので、石を角柱状に割るときに溝をつけるものです。楔形石器は、擦切具で付けた溝に当てて打割する道具です。石針は、ちょうど鉛筆の芯ほどの大きさで、管玉の穿孔に用いられたと考えられています。

木製品では、梯子があります。広葉樹の丸木を板状に加工し、数段のステップを削りだしたものです。1点は土坑に立てかけられて出土したことから、貯蔵穴の昇降に利用されたことが推測されています。平鍬は、弥生時代中期の木製農具としては現在でも県内では唯一例です。炭化米は土坑の土を水洗した結果得られたもので、500粒以上にのぼります。粒の大きさはばらつくもののジャポニカ型です。また、粒圧痕のある土器底部も複数確認されています。

このように、下谷地遺跡出土品は、弥生時代中期にすでに本県で本格的な稻作農耕が定着していたことをよく示しており、また、玉作や土器から隣接地域間の交流をうかがい知ることができる資料として重要です。

(高橋 保)



土器



木製梯子

埋文にいがた No.83

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1

T E L (0250) 25-3981

F A X (0250) 25-3986

E-mail : niigata@maibun.net

U R L : <http://www.maibun.net>

印 刷 阿部印刷株式会社